

私の夢。それは母国ベトナムと日本との
科学技術交流の架け橋になること。



「水」と「油」といえば、互いに相いれないものの代表ですよ（ちなみにベトナムの諺では「水」と「火」という言い方をします）。その両者の間に入って、互いになじませる仲介役の働きをする化合物が界面活性剤です。洗浄剤や、化粧品などに使われている可溶性剤や乳化剤もその一種であり、応用性の高い界面活性剤は日常生活のさまざまな場面で活躍しています。私の研究テーマはその界面活性剤であり、なかでも次世代型として世界的に注目を集めているジェミニ型界面活性

剤の開発に取り組んでいます。

界面活性剤は水になじみやすい親水基と、油になじみやすい疎水基の結合により成り立ちますが、ジェミニ型は親水基と疎水基を2個ずつ結合させたもの。その特徴はより幅広い応用性と少量で優れた機能性を発揮



することにあり、少量で済むということは省資源と環境保護にもつながります。このようにメリットの多いジェミニ型ですが、現段階では合成法や物性についての研究が不十分のため、まだ実用化には至っていません。なので私の取り組みによってジェミニ型が1日でも早く、世界で利用されるようになれば・・・そう強く思いながら、毎日の研究に打ち込んでいるところです。

そもそも界面活性剤の研究をはじめたのは、食品製造や製薬分野への応用を通して母国に貢献したいと思ったからです。KITを選んだのは、界面活性剤を専門的に学べる世界有数の研究室があったため。今年で在学6年目ですが、留学生へのケアが手厚く、生活面でもとても助かっています。KITを選んだ理由には、京都の大学だからということもありました。ベトナムでも京都は有名なんですよ。真っ白の比叡山を目にしたときは、雪を見たのが生まれてはじめてだったこともあり、ほんとうに感動しました。

課程専門科目担当教員一覧(五十音順)

足立 馨 高分子化学、高分子合成、複合材料
飯塚 泰雄 触媒反応解析、表面化学反応
池田 裕子 コム・エラストマー科学、高分子材料科学
石川 洋一 気相無機化学、レーザー分光学
石原 孝 有機フッ素化学、有機反応化学、有機合成化学
一ノ瀬暢之 光物理学、放射線物理学
岩崎 仁 光機能材料学・画像情報学
浦川 宏 ソフトマテリアル物理、染色化学
老田 達生 有機合成化学、界面材料化学
岡本 泰則 無機材料科学、固体化学
角野 広平 無機化学、無機材料化学、アモルファス材料科学
鎌田 徹 有機合成化学、有機電気化学
川瀬 徳三 界面材料学、応用界面化学
岸本 通雅 化学工学、生物プロセス工学、分離精製工学
熊田 陽一 化学工学、生物化学工学、生物プロセス工学、分離工学

楠川 隆博 構造有機化学、有機合成化学、錯体化学
小林 久芳 計算材料科学、量子触媒化学、高温反応工学
今野 勉 有機フッ素化学、有機合成化学、有機金属化学
塩野 剛司 無機材料科学、セラミックス工学
塩見 治久 無機材料工学、粉体工学
清水 富男 有機合成化学、複素環化学
高河原俊秀 物性I、原子・分子・量子エレクトロニクス・プラズマ
高廣 克己 放射線物性、原子分子物理学
竹内 信行 セラミックス工学
塚原 安久 高分子化学、オリゴマー化学、高分子材料化学
寺澤 昇久 放射線と分子との相互作用に関する研究
中 建介 高分子化学、合成化学、ナノ構造科学、機能物質化学
永原 哲彦 物理化学、生物物理・化学物理、原子・分子・量子エレクトロニクス・プラズマ
中山 敏弘 光物理学、励起状態ダイナミクス、サブピコ秒レーザーホトリス

羽藤 由美 応用言語学、第二言語習得研究、外国語教育学
林 千恵子 現代アメリカ文化・文学、ネイティブ・アメリカンの文化・文学
原田 俊郎 有機合成化学
PEZZOTTI, Giuseppe 材料物理学及び工学、破壊力学、変形力学
前田 耕治 分析化学、電気化学
三木 定雄 有機光化学、物理有機化学、光機能材料学
箕田 雅彦 高分子合成、有機機能材料学
本柳 仁 有機化学、機能材料・デバイス
安永 秀計 高分子科学・染毛科学
湯村 尚史 量子化学
吉田 裕美 分析化学、電気化学
若杉 隆 アモルファス工学、高温物理学